

ロータリークラブ

便り

今回は、1月29日に開催した奈良西ロータリークラブの例会でお話いただいた奈良市消防局文化財防災官、村田吉弘消防指令長の卓話を紹介します。

文化財防災官とは全国にたった一つの職で、奈良市に数多く所在する文化財、文化遺産を火災やあらゆる災害から守るため、消防の視点から指導していくことを目的に平成10年に設置されました。

は文化財保安官がおられます。毎年1月26日は文化財防火デーと定められ、今年で第61回目を迎えました。奈良市消防局では、同日を中日とする一週間文化財防火運動を展開しており、文化財建造物への集中的な立入検査を

ちなみに奈良県警察に

へ

奈良市の文化財防災について

実施したり、関係者と合同で防火・防災訓練を行っています。

全国には2428件の重要文化財の建造物があり、うち221件が国宝に指定されています。奈良県では265件の重要文化財の約24%にあたる64件が、奈良市は102件の約3割の31件が指定されており、国宝の割合が非常に高くなっています。

文化財彫刻（主に仏像など）に関しても、全国の国宝彫刻128件のうち、奈良県には71件が所在し、全国の約55%が集まっています。とりわけ奈良市は45件で、全国の約35%を占めています。これらの文化財を火災

から守るための取り組みです。

ですが、まず文化財関係者に仏像や古文書のリストを作成してもらい、優先順位を定めて搬出する計画を立て、それに基いて訓練を行います。東大寺の搬出計画書となると約300ページにもなり

ます。

消防局では、過去の火災で仏像を搬出した際のダメージが大きかった経験を教訓として、日本に一体しかない訓練用の仏像を作製し活用しています。また、搬出訓練と合わせて消火、通報、避難の消防訓練も定期的に行っています。

消防局では、過去の火災で仏像を搬出した際のダメージが大きかった経験を教訓として、日本に一体しかない訓練用の仏像を作製し活用しています。また、搬出訓練と合わせて消火、通報、避難の消防訓練も定期的に行っています。

警戒しています。

奈良市内には多くの文化財建造物をはじめ史跡や名所、美術品があり、

今まで幾度も災害に見舞われながらも、多くの方々の努力により大切に守られ現在に至っています。この貴重な奈良市の文化財を消防局と文化財関係者、市民が協力して次の世代へ引き継いでいかねばなりません。

今後文化財の防火・防災にご協力とご理解をたまわりますようお願いいたします。

一体だけの仏像活用

用設備、放水銃やドレンチャーターなどの防災設備、防火設備などがありま